

テーマ

会計基準グローバル化と 日本基準

適用
分野

会計学、会計史、会計制度、
企業会計基準、国際会計基準

研究
名称

欧米制度の移植と日本型会計制度の成立史

氏名
所属

久保田秀樹 教授
経営学部 経営学科

内容

●特徴

日本の会計制度の変遷の歴史と欧米の影響を検証する。

●研究内容

国際財務報告基準(IFRSs：International Financial Reporting Standards)とのコンバージェンスが日本でも本格的に始動し、会計基準のグローバル化がいよいよ現実のものとなろうとしている。しかし、日本の会計制度は、その近代化のプロセスにおいて常に欧米の動向を摂取する形で進められてきた。昭和9年の商工省『財務諸表準則』、昭和16年の企画院『製造工業原価計算要綱草案』、昭和24年『企業会計原則』をはじめとし、戦後の企業会計基準も欧米の影響を強く受けてきた。

また、日本で最初の西洋式簿記に関する書物は、福沢諭吉による明治6年『帳合之法』(下掲写真)であるが、これは、当時の米国の簿記教科書の翻訳であった。

このように会計は、制度及び教育について、スタートから国際的動向に敏感な領域であり、同時に

日本の事情を織り込んで「修正」された上で、日本型制度として確立されてきた。日本型会計制度の歴史は、国際的動向と国内事情の調整の歴史でもあり、その課題は、会計基準のグローバル化が進展する今日も生き続けている。



キーワード

企業会計基準、国際財務報告基準(IFRSs)、会計基準のグローバル化、会計制度史、福沢諭吉

連携方法

■ 講演 ■ 研修 ■ 研究相談 ■ 学術調査 ■ コメント ■ 共同研究